七宝中学校　坂　羚矢

　平和体験学習に向かい、あの日の人々の恐怖を実感しました。被爆した方からの講話で被爆によって一分間の心拍数が二十一回になっていたと聞き、驚愕しました。原爆の資料もいくつか見て、丸こげになった服などあまりにも無慈悲に亡くなった人々の命の跡から、原爆の残酷さを学びました。「人間が人間らしく生きられなくなる」この言葉が講話で聞いてからずっと心に残っています。今ある平和を守っていくためにも、僕たちはあの日のことを忘れてはいけません。

七宝中学校　赤坂　玲奈

　「見たくない、目を背けたい」資料館で当時の資料を見ているとき、そう感じました。広島に落ちた、たった一つの原子爆弾は、大勢の人の「当たり前の日常」を壊すほどの核兵器でした。今日もどこかで、戦争が起きている、その事実を変えないといけません。

　いつかは来る、被爆者のいない世界で、私たちは「後世に伝える義務」があります。毎朝来る、八時十五分。その時間に登校できているのは、平和だと実感しました。今後、同じ悲劇がおきないよう、私たちは行動しないといけません。

七宝北中学校　倉知　快結

「私の人生はどん底から始まった。だから上がることしかなかった。」あなたの普通はなんですか？物心ついたころには、戦争が始まっていて原爆が投下されていた、そんな人たちの「普通」を私はこの二日間で学んできました。道端に生えている草をおいしい、おいしいと食べる。それしか知らないから、それが「普通」だから。今の私たちの中の普通がどれだけ素晴らしいものか、どれだけ価値のあるものかを噛みしめ、次の世代にもその「普通」を繋いでいく、それが私たちの義務だと思います。

七宝北中学校　宮﨑　優奈

「誰か分からないくらい炭化した死体が沢山あった。人間らしく生きられる人間がいなくなることが怖かった。」と、被爆者の方が語られていたことが印象に残りました。

　原爆がなかったら被爆した全ての人に別の人生がありました。自分が今生きていることに感謝し、二度とこのような悲劇が起こらないよう、戦争の残酷さを伝えていくことが私たちの果たすべき役目だとこの体験を通して学びました。

美和中学校　押尾　美輝

「人間が人間らしくいられない怖さ」と被爆者の方がおっしゃった時、僕は人の命や感情、自由や尊厳が奪われ、人を人として見れなくなってしまうことが戦争の本当の怖さだと感じました。

「一九四五年八月六日に広島、九日に長崎に原子爆弾が投下されました」この文の裏でどれだけの人が涙を流したのかを僕たちは考えなければなりません。世界唯一の戦争被爆国である日本にいる僕達が「原爆がなかったら別の人生があった」ことを次の世代へ伝えなければならないと思います。

美和中学校　大原　后乎

「今の中学生はペンを持って勉強することが仕事だけれど、当時の中学生は働くことが仕事」と被爆者の方は語っていました。私たちにとって、今では当たり前だと思っていることでも戦時中では当たり前ではなかったのです。今の平和な日本があるのは、戦争（核）について多くの人が反対する声を上げているからです。被爆者の思いを私たちが次の世代に語り継いでいくことが、平和へのバトンだと思います。

甚目寺中学校　栂　綾斗

　平和記念資料館で見た、被爆した方の写真を、今も鮮明に覚えています。焼けただれた肌、痛みに悶える表情。私たちが苦しみも傷つきもせず、平和な毎日を送れることがかけがえのないことなんだと実感しました。

　私たちは、戦争を経験することなく生きてきました。だからこそ、自ら情報を集め、学ばなければ、平和の価値に気付くことはできません。昔を、戦争の悲惨さを知り、今の尊さを知ることが、これからも平和であるための第一歩だと思います。

甚目寺中学校　大野　栞奈

　「原爆が落とされた日、とても小さな駅舎の外では血だらけの人が大勢横たわっていました」と被爆者の方が仰っていました。その言葉を聞いた時、教科書などでは伝わらない戦争のリアル、悲惨さが伝わっていました。今でも原爆症の後遺症により苦しんでいる人は少なくはありません。

　多くの人の人生を変えた原爆を今、所持している国は世界中にたくさんあります。二度とこの悲劇を起こさないために語り継いでいくことが今を生きる私たちのやることだと思います。

甚目寺南中学校　石原　大地

「被爆から十年経っても草も生えない更地だった。」当時三歳で被爆した方が仰っていました。この学習で一番記憶に残っているのは「被爆のその後」です。教科書には被爆した直後のことしか書かれていないことがほとんどで、病院に行くお金が無い中放射線の治療に励む人々、臨時の看護施設の壁に書き残された捜索願いや伝言の数々は広島に行って知れたことです。

この小さいけど重大な出来事をこれから私たちが何世代にも渡って語り、平和があたりまえになることが大切だと実感しました。

甚目寺南中学校　滝　あざみ

原爆ドームを自分の目で見て私は言葉を失いました。実際に被爆したともこさんの話を聞いて、たった一つの核兵器だけでとてもたくさんの人の命や明るい未来が一瞬で消えてしまったことを知ることができました。ともこさんの話を聞いた後にもう一度原爆ドームを見た時、初めて見た時よりも黒く、暗く、悲しさや悲惨さをより感じました。

このような今回学んだことを一人でも多くの人に伝え、同じ過ちを犯さないように平和について考えるきっかけを作りたいです。